

---

---

## 資料 1

### 第 4 回検討委員会の主な意見とその対応

---

---

#### 目 次

1 第 4 回検討委員会の主な意見とその対応 .....	1
------------------------------	---

## 1. 第4回検討委員会の主な意見とその対応

### 第4回検討委員会の主な意見とその対応-1

検討委員会の主な意見	対応方針案
<p>➤ 吉野川におけるシナダレスズメガヤの分布状況について</p>	
<p>資料中には、H7年とH12年の植生図があるが、この間の植生図はないのか、またどうして、H7年とH12年に植生図が作成されているのか（森本委員）</p>	<p>概ね5年おきに実施される河川水辺の国勢調査の調査結果を基にしているため、初回のH7年から5年おきのH12年、H17年の植生図がある。なお、H15年はシナダレスズメガヤ対策検討委員会が始まった年であるため、植生図作成調査を実施し、作成した。</p>
<p>➤ 吉野川におけるシナダレスズメガヤ対策の今後の検討の流れについて</p>	
<p>洪水外力の検討で、数年に1回の洪水規模は確率計算により決定するのか？（鎌田委員）</p>	<p>過去の50年間の年最大流量資料より設定している。</p>
<p>シナダレスズメガヤの侵入可能性の分析は有用な手段と考える。これを行う指標として、「河口からの距離」なども入れることも考えられる。（鎌田委員）</p>	<p>分析にあたって考慮する。</p>
<p>レキ河原を利用する種として、イカルチドリ、コチドリ、コアシサシ等があげられる。イカルチドリは中流以上、コチドリ、コアシサシは中流以下に多い鳥で、西条大橋地区では両方が見られる。（曾良委員）</p>	<p>吉野川の実環境の目指すべき方向性、及び対策実施箇所の優先度を検討する上での参考とする。 イカルチドリ、コチドリのレキ河原の利用状況について調査結果がないため、今後資料の収集等に努める</p>
<p>シナダレスズメガヤの親株を抜き取り、親株がない状態にしても、しばらくの間は実生が出てくる。種子は3年くらいは生きているようだ。（森本委員）</p>	<p>対策案を検討する際の参考とさせていただく（抜き取りに対する「維持管理の容易性」として考慮する）。</p>

## 第 4 回検討委員会の主な意見とその対応（案）-2

検討委員会の主な意見	対応方針案
<p>➤ ヤナギ伐採・モニタリング計画について（中間報告）</p>	
<p>目的にある「健全なレキ河原」について、どのような状態を指すか明確にすべきである。（鎌田委員）</p>	<p>「健全なレキ河原」とは、「自然の洪水営力により動的に河原が維持されること」と位置づける。</p>
<p>ヤナギの伐採方法の検討についても必要では。また、伐採する時期によっても萌芽状況も異なる。環状剥皮は秋季に行うのが効果的と思う。（森本委員）</p>	<p>ヤナギの伐採方法については、試験地において別途調査・検討している。環状剥皮を行う時期については、今後の参考とさせていただきます。</p>
<p>➤ 吉野川のシナダレスズメガヤ対策における基本方針（案）について</p>	
<p>2 行目のシナダレスズメガヤの急激な繁茂について、その要因についても記述すべきである。（曽良委員）</p>	<p>シナダレスズメガヤの急激な繁茂は、吉野川だけでなく、全国的に見られる現象である。これまでの検討で分かった範囲で記述する。</p>
<p>これまでのモニタリング等で確認された事項は、箇条書きにしている等、わかりやすく表現されている。今後の対応についても、同じようにわかりやすい表現にしてはどうか。（鎌田委員）</p>	<p>表現方法について検討する。</p>
<p>スイスでは、雪解け水による洪水があるが、その対策で樹高 3m 以上になったヤナギ等を切る。ただし、3m という数字の根拠は不明である。（森本委員）</p>	<p>今後の検討の参考とさせていただきます。</p>